

第 8 回国立高度専門医療研究センターの今後の在り方検討会意見書

認定 NPO 法人ささえあい医療人権センターCOML
理事長 山口 育子

2018 年 11 月 15 日に開催されます第 8 回国立高度医療研究センターの今後の在り方検討会に所用のため出席できませんので、以下の意見を提出致します。

資料 1 NC の有機的・機能的連携に向けた組織体制（案）について

6NC がそれぞれの深い専門性を発揮した医療機関であることを考えると、その独立性を維持しながら、分野や内容に応じて連携できる研究業務を支援する必要があると考えます。また、昨今の医療を取り巻く分野の変化のスピードを考えたとき、あまり法律で縛りを強くすると、時代に即した柔軟な対応ができなくなることも懸念します。

それらを総合的に考えると、6NC の法人格を維持しつつ 6 法人横断支援組織を NC 内部の機能として位置づけることが最も現実的だと思います。また、その組織も常に見直しながら、必要に応じて柔軟に変革していけるようなあり方が望ましいと考えます。

資料 2 報告書（案）について

1. 報告書は広く国民も読むことを考えると、専門家以外の人を読んでもわかりやすい表現を心がける必要があると思います。特にカタカナ表記が多いので、必要に応じて注記するなど工夫していただきたいと思います。

2. 5 ページ②イの 1 行目と 6 ページ最後から 2 番目の段落に「利益相反（COI）に留意しながら」という表現が出てきます。一般的に、「利益相反はあってはならない」と解釈されていることが多く、「利益相反がない」ことを良しとする傾向があります。利益相反はあってはいけないのではなく、産学共同で研究すれば生じるのは当然のことなので、きちんと公開しているかどうか問われることだと思います。「利益相反（COI）に留意しながら」だけだと、「利益相反がないように気をつけながら」という意味だと誤解を招く可能性があると思いますので、「利益相反（COI）の申告、管理、公開に留意しながら」など、適切な表現にしていいただければと希望します。

以上